

表紙のはなし

# Fresh Smile

フレッシュ・スマイル

期待の新星！ 徳中で働くフレッシュなルーキーが、未来のビジョンについて語る！



私が理学療法士を志したのは、誰かの生活を少しでも良い方向に変える手助けがしたいと思ったことがきっかけです。リハビリを通して「できなかったこと」ができるようになる瞬間に寄り添えることに、大きなやりがいを感じています。仕事ではまず行動し、実践から学びを広げる姿勢を大切にしています。今後は多様な症例に対応できる臨床力を高め、利用者の方が前向きにリハビリへ取り組める関わり方を追求したいと考えています。一人ひとりに寄り添い、その人らしい生活を取り戻すお手伝いができればうれしいです。

リハビリテーション部(入職1年目) 理学療法士

しおや まさき  
塩屋 大稀



身内に医療従事者がいたことから医療の道を志し、幼い頃から薬に触れる機会が多かったことが薬剤師を目指すきっかけになりました。業務では多くの症例や処方に触れ、学生時代には得られなかった知識や経験を積み重ねることを大切にしています。患者さんに安全な医療を提供できるよう、用法・用量や投与間隔を丁寧に確認し、調剤・監査に取り組んでいます。これから本格的に始まる病棟業務では、患者さんやご家族の声に寄り添い、その方にとって最適な薬物治療に貢献できる薬剤師を目指して努力していきたいと考えています。

薬剤部(入職1年目) 薬剤師

やました まや  
山下 真弥

好きな言葉: パワープレイ

座右の銘: 地道は近道

## 旬素材で 健康レシピ

栄養管理室が発信!

管理栄養士  
なかたに ゆかり  
中谷 由華



冬が旬のキャベツ。今年は例年と比べて手頃な価格になり、食卓に並ぶ機会も多いのではないのでしょうか。キャベツには「キャベジン」という成分が含まれ、傷ついた胃粘膜の修復を助ける作用があります。また、山芋の粘り成分は胃壁などの粘膜を保護する働きがあり、梅干しの酸味成分であるクエン酸は疲労回復や食欲増進に効果的。ぜひ今日の献立にプラスして、体にやさしい食事を楽しんでみませんか？ 年末年始で疲れた胃腸をいたわりながら、手軽においしく栄養を摂れる一品です。

no. 32

### キャベツと山芋のさっぱり和え



- 材料(2人分)
- キャベツ..... 100g
  - 山芋..... 40g
  - 梅干し..... 1個(10g)
  - めんつゆ(4倍濃縮)..... 小さじ1
  - きざみのり..... ひとつまみ
- 作り方
- ①キャベツは千切りにする。
  - ②山芋は皮をむき、千切りにする。
  - ③梅干しは種を取り、粗くみじん切りにする。
  - ④ボウルに梅干し、めんつゆ、きざみのりを入れて混ぜる。
  - ⑤④にキャベツと山芋を加え、さっと和える。
- ☆冷蔵庫で1~2時間置くとキャベツがしんなりして食べやすくなります。

編集後記

昨年は、私自身が病院を受診する機会が多く、健康の大切さを実感した一年でした。些細なことですが、油の多い食事が続いたり、大好きなチョコレートを食べ過ぎるとすぐに肌荒れてしまい…。肌の調子だけでなく、体全体のコンディションにも影響が出ることを身をもって感じました。今年の目標は、野菜をたくさん食べること！いつも本誌の「健康レシピ」を参考にしていますが、今号のような副菜レシピのレポーターも充実させていきたいです♪

JCHO 徳山中央病院 広報誌「Smile」  
vol.032 2026年2月1日発行  
ご意見・お問い合わせは… JCHO徳山中央病院 総務企画課  
TEL: 0834-28-4411 E-mail: main@tokuyama.jcho.go.jp  
発行/JCHO徳山中央病院  
direction&design/株式会社 しろくまワークス  
writing/小野理枝 photo/Photo Office MOTHER LEAF

# Smile

Tokuyama Central Hospital

地域のみなさまと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ  
コミュニケーションマガジン

ご自由にお持ち帰りください

vol.032  
February, 2026

診療科情報 P1-2

## ～心臓治療の新しい選択肢～ TAVI治療スタート!

心臓血管外科 池永 茂

Hello! 部署訪問 P3

## 東館6階病棟 (消化器内科)

特定看護師 P4

救命救急センター 濱田 浩士

地域医療連携協力医 突撃レポート P5

## かとう整形外科クリニック よろず相談室

P6

NEWS & REPORT! ・医療Pick up!  
CLOSE UP! 健診センター・ここにもSMILE!

表紙のはなし: フレッシュスマイル! P7

理学療法士 塩屋 大稀 薬剤師 山下 真弥

旬素材で健康レシピ P7

キャベツと山芋のさっぱり和え  
管理栄養士 中谷 由華



症状がほとんどないまま重症化している場合も!

## 見逃さないで! 大動脈弁狭窄症のサイン

大動脈弁狭窄症はゆっくり進行するため、高齢の方では症状に気づきにくいことが少なくありません。「年齢のせいかな…」と思っていた変化が、実は病気のサインということもあります。次のような症状や変化があれば、一度ご相談ください。



MEMO

### どんなときに見つかるの?

大動脈弁狭窄症は症状がはっきり出にくく、別の検査や通院をきっかけに見つけることも多い病気です。息切れや疲れやすさを感じて受診した際に判明したり、ほかの疾患のフォロー中に心雑音を指摘されて発見されるケースもあります。

MEMO

### 家族が先に気づくことも

本人より、まわりの方が先に気づくこともあります。日常の“ささいな変化”に注意してみましょう。

- よく休憩するようになった
- 階段や坂道を避けるようになった
- 活動量が減ってきた

MEMO

### 早めの受診が大切!

大動脈弁狭窄症は自然に治ることはなく、治療の適切なタイミングを失うと心臓の働きは低下し、命にかかわる可能性が高くなります。重症まで進行した場合、早期に手術治療を検討することが重要です。

## ~心臓治療の新しい選択肢~ TAVI治療スタート!

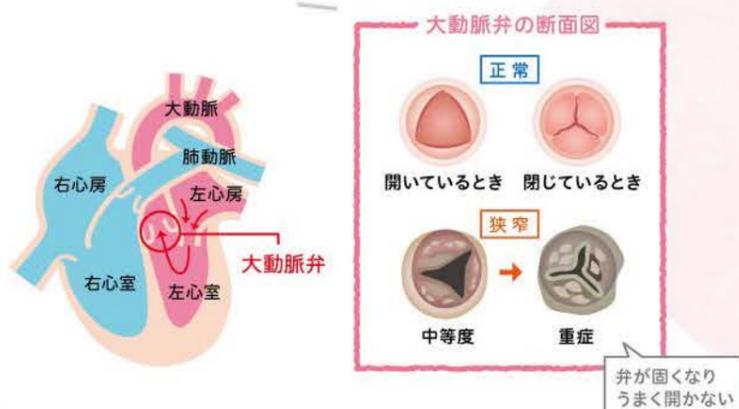
TAVIは、重度の「大動脈弁狭窄症」に対するカテーテル治療で、2013年10月から保険適用となった比較的新しい治療法です。当院は2025年9月にTAVI実施施設として認定され、治療の提供を開始しました!

心臓血管外科  
主任部長  
いけなが しげる  
池永 茂

## 大動脈弁狭窄症とは?

大動脈弁狭窄症は、心臓の出口にある大動脈弁が狭くなり、血液の流れが悪くなる病気です。加齢による動脈硬化や、先天的な弁の異常などが原因で起こります。

この病気は自然に治ることはなく、軽症~中等症では薬で症状を和らげながら経過をみる「保存的治療」が行われます。しかし、重症まで進行すると、薬だけでは対応が難しくなり、弁を人工弁に取り替える外科的な治療を検討する必要があります。



### <重症化した大動脈弁狭窄症の主な治療方法>

#### 外科的治療

##### ○通常の開胸手術

胸骨を切開して人工心臓を使い、心臓を一時的に止めて人工弁に取り替える方法。胸骨を切るため、術後に運動制限がある。

##### ○低侵襲心臓手術(MICS)

胸骨を切らず、3~4cmの小さな傷から直視下または内視鏡を用いて弁を取り替える方法。術後の運動制限がないため、退院後はすぐに職場復帰できる。

#### カテーテル治療

##### ○TAVI (経カテーテル大動脈弁置換術)

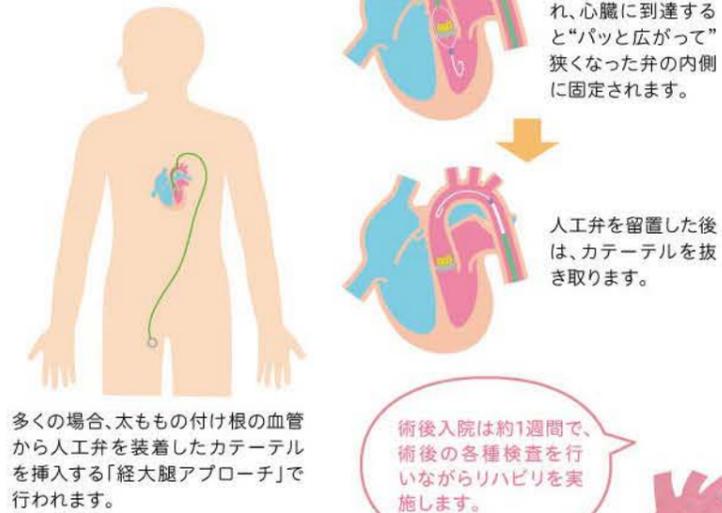
胸を開かず、足の付け根などの血管からカテーテルで人工弁を運んで、心臓に留置する“切らない治療”。体への負担が非常に少なく、入院期間も短いのが特徴。

## 心臓治療の新しい選択肢「TAVI」

TAVIは、足の付け根などの血管から細い管(カテーテル)を通し、折りたたんだ人工弁を心臓まで運んで留置する手術です。手術のために胸骨を切開したり、心臓を止めたりする必要がないため、身体への負担が少なく、入院期間が短いことが大きな特徴です。

一方で、開胸手術ではほとんど起こらない合併症が生じる可能性があります。しかし、近年は技術や経験の蓄積により、合併症の発生率は年々低下していると報告されています。

治療選択の目安としては、80歳以上の方にはTAVIが推奨され、75歳未満の方には外科的治療が推奨されています。75~80歳の方については、体力や心臓・血管の状態などを総合的に判断し、個々に合った治療法を選択していきます。



術後入院は約1週間で、術後の各種検査を行いながらリハビリを実施します。

多くの場合、太ももの付け根の血管から人工弁を装着したカテーテルを挿入する「経大腿アプローチ」で行われます。

## 当院のTAVIを支える、“ハートチーム”の総合力

当院では、心臓血管外科・循環器内科・麻酔科をはじめ、看護師、放射線技師、検査技師、理学療法士、管理栄養士、地域連携室が連携する「ハートチーム」が、診断から治療、退院後の生活支援まで一貫してサポートしています。

TAVIは、患者さんの年齢や体力、血管や心臓の状態など、多くの要素を総合的に判断する必要があるため、複数分野の専門家が集まり、検査データの解析や治療方針の検討を行います。

TAVIは身体への負担が少ない一方、チーム連携の精度が治療の安全性や結果を大きく左右する治療です。当院ではこの体制によって、一人ひとりに合った安全な医療を提供しています。



Hello!  
部署訪問  
no.32



今回ご紹介するのは…

“東館6階病棟”  
(消化器内科)

東館6階病棟は、主に消化管疾患・肝疾患の患者さんを受け入れる病棟です。消化管出血、胆膵疾患、肝疾患、炎症性腸疾患、がん化学療法の管理など、多岐にわたる病気に対して専門的かつ迅速な医療を提供しています。地域の中核的急性期病院として、外来・救急からの緊急入院にも柔軟に対応しており、常に予定入院と救急入院の両方を受け入れる体制を整えています。

消化器疾患の治療では、内視鏡を用いた高度医療にも積極的に取り組んでいます。内視鏡的逆行性胆膵管造影(ERCP)や、早期がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)など、身体への負担が少ない先進的治療を日常的に実施しています。これらの検査・処置前後の看護には、専門的な知識や高度な技術が求められるため、看護師一人ひとりがスキルを磨きながら、患者さんの安全と安楽を第一に考えた看護を提供しています。また、化学療法を継続される患者さんに対しては、身体面・心理面の双方に寄り添いながら、長期的なサポートを行っています。

病棟に在籍する看護師は27名で、平均年齢は38.5歳です。ベテラン・中堅・若手がバランスよくそろい、チーム力を活かした看護を実践しています。新人看護師にはペアリング方式を採用し、経験豊富な先輩がマンツーマンで支えることで、安心して成長できる環境を整えています。

また、肝疾患コーディネーター、内視鏡技師、院内がん薬物化学療法認定看護師、院内退院支援認定看護師など、

部署データ

消化器内科医師	8名	病棟看護師	27名
内視鏡室看護師	8名	看護補助者	5名

東館6階病棟スタッフ

専門知識を持つスタッフが在籍しており、患者さん一人ひとりの状態に合わせたきめ細やかな支援を行っています。医師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフなど多職種と連携し、入院から退院後の生活までを見据えた包括的なサポートを実践しています。

教育面にも力を入れており、看護学生の実習受け入れや中高生の職場体験、インターンシップの実施など、次世代の医療人育成にも積極的に取り組んでいます。実践を通して「患者さん中心の看護」を学び、チーム医療の重要性を理解できる環境づくりを大切にしています。

病棟の目標は「専門性の高い安全・安心な看護の提供」「患者・家族に寄り添う思いやりのある看護」「学び続ける看護師の育成」です。スタッフ同士が協力し、円滑なコミュニケーションを大切にしながら、笑顔と活気のある病棟づくりに取り組んでいます。入院生活のなかで患者さんが安心感を持ち、居心地のよさや信頼を感じられる病棟でありたいと考えています。



救命救急センター はまだ こうじ  
濱田 浩士

Certified Nurse

特定看護師

Certified Nurse Specialist

徳山中央病院では現在35名の看護師が特定行為研修を修了しています。今回は、救命救急センターに在籍する特定看護師をご紹介します。

特定看護師って？

指定研修機関において特定行為研修を受けた看護師が、患者さんの状態を見極め、適切なタイミングで診療の補助を行います。医師による手順書に準じて、患者さんの状態に応じたタイムリーな医療行為を提供できます。

どんな特定行為を行っているのですか？

救命救急センターは、昼夜を問わず重症患者が搬送され、分割みで判断が求められる現場です。モニターの警報が鳴ればチーム全員が瞬時に動き出す——そんな緊張感の中で、私たち特定看護師は医師と協働し、患者さんの状態変化に即応した処置を行っています。

私は現在9区分の特定行為研修を修了しており、その中でも「中心静脈カテーテル抜去」や「橈骨動脈ラインの確保」は、医師と連携しながら必要時に迅速に対応しています。急変時には動脈ラインを確保し、血圧モニタリングや血液ガス分析の結果を速やかに医師に共有することで、治療方針の決定を支援しています。

また、「急性血液浄化療法における血液透析濾過機器の操作および管理」や「インスリンの投与量調整」では、実践に加えてスタッフ教育にも力を入れています。透析中の微妙な圧変化への対応、血糖コントロールの判断基準など、現場で培った知識を先輩に伝えることで、チーム全体が安心して対応できる環境づくりに取り組んでいます。

を常に意識しています。特定行為の実践と教育の両面から、救命救急センター全体のスキル向上にも貢献したいと考えています。

今後どのような役割を目指していますか？

現在、「末梢留置型中心静脈カテーテル(PICC)の挿入」取得に向けて研修を進めています。修了することで、より幅広い場面で迅速かつ安全な医療支援が可能になると確信しています。

救命救急センターは24時間体制で多様な症例に対応する場所であり、看護師一人ひとりの判断力が患者さんの予後に影響することも少なくありません。今後は、これまでの経験を活かしてスタッフの育成や看護行為の相談にも積極的に関わり、現場全体の看護の質の向上を目指していきたいです。

医師と協力しながら患者さんにとって最善の医療を提供することが、救命救急センターの看護師として、そして特定看護師としての役割です。これからも知識と技術を磨き、命をつなぐ現場の一員として、挑戦を続けていきます。



救命救急センターで大切にしていることは？

救命救急センターでは、患者さん一人ひとりの状態が刻々と変化します。声を掛け合いながら処置を進め、限られた時間の中で最適な対応を選択していく——その一連の動きはまさにチーム医療そのものです。

看護師として、そして特定行為看護師として、私は「医師の判断を支える確かな情報提供」と「チームの要となる存在であること」

マストアイテム教えてください！

私のマストアイテムは聴診器です。お腹の音から腸の動きや腸閉塞の有無を確認したり、呼吸音を聴いて状態を判断したりと、日々の看護に欠かせません。患者さんの急変対応や緊急入院が多く、緊張する場面も少なくありませんが、的確なアドバイスをくれる先輩がそばにいてくれるため、心強さを感じながら安心して働くことができています。



看護師  
いまたに ひなこ  
今谷 日向子

入職1年目の私にとって欠かせないアイテムは、ユニフォームのポケットに入れているメモ帳です。検査時の準備や医師の指示に沿った物品、手順など覚えることが多いため、すぐに確認できるようにインデックスを付けて工夫しています。日々の業務を支えてくれる、大切な相棒です。



看護師  
いのうえ こほ  
井上 木の葉

# 地域医療連携協力医

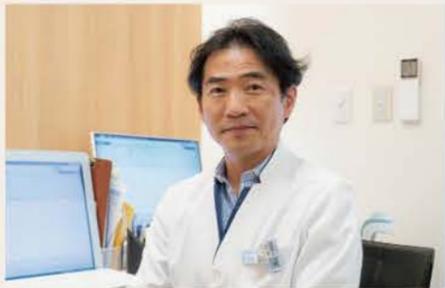
## 突撃レポート! Report

当院と連携する地域の「かかりつけ医」をご紹介します  
専門的な診療や予防医療に対応する  
クリニックの魅力や特徴をお伝えしていきます

今回ご紹介する  
クリニックは…

# かとう整形外科 クリニック

かとう ひでとよ  
院長 加藤 秀豊 先生



診療科目/整形外科、リウマチ、リハビリテーション  
下松市瑞穂町1-7-24 TEL.0833-48-8155  
(リハビリ専門)TEL.0833-48-8165

受付時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:30	●	●	●	● 13:00まで	●	● 13:00まで	-
14:00~18:00	●	●	●	-	●	-	-

### PROFILE

日本専門医機構認定整形外科専門医。日本整形外科学会認定リウマチ医・認定運動器リハビリ医・脊椎脊髄病医・スポーツ医、身体障害者福祉法指定医。日本体育協会公認スポーツドクター。山口大学医学部卒業後、県内外の医療機関で研修を積み、光市立光総合病院では整形外科部長・リハビリテーション科部長を務める。2019年に「かとう整形外科クリニック」を開業。

下松市に開院して7年目を迎える「かとう整形外科クリニック」は、毎日200人前後の患者さんが訪れる人気のクリニックです。院長の加藤 秀豊先生は、25年以上の臨床経験を持つエキスパート。骨折や打撲、捻挫、切り傷や擦り傷、関節・筋肉の痛み、スポーツによるケガ、骨粗しょう症など、さまざまな運動器の不調に対応しています。

「良い治療は正しい診断がなければできません。そのため、理学療法士や作業療法士、看護師、放射線技師などの多職種が連携し、正しい診断を行った上で、治療・リハビリテーション・予防を含めた包括的なサポートを行っています」

痛みがあるときにかかることといえば、整骨院や整体院を思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれません。整形外科と何が違うのでしょうか？

「大きな違いは、レントゲンやMRIなどの画像診断により、痛みの原因や隠れた病気を発見できることです。また、エコー（超音波）も用いて、筋や腱、靭帯、関節内の状態を確認し、診断や治療方針の判断に役立てています。基本的に、良性の疾患は時間が経てば症状が軽くなっていきますが、悪性の場合は悪化する一方です。ただの腰痛だと思っていたら、がんの転移だったということもあります。その症状の原因がどこからきているのか、医学的な診断ができるのは整形外科のみです。」

ケガの直後からおよそ3週間は急性期と呼ばれ、炎症が最も強い時期。この時期は安静にすることが最も大切です。「今すぐ何か処置をしなければいけないと思われるかもしれませんが、この時期に無理



をして動かすと、痛みが長引く恐れがあります。また、痛みを取るためにブロック注射を希望される方もいらっしゃいますが、全ての方に適するわけではありません。」

一方、症状が安定してくると、運動機能を回復させるためのリハビリテーションが必要になってきます。

「回復の質と速度を左右するのは、適切なリハビリテーションです。当院では、日常生活や競技への復帰、予防や健康維持など、一人ひとりの状態や目標に応じた個別メニューを作成し、理学療法士による段階的な運動器リハビリを提供しています。痛みがあったとしても、身体をうまく使いこなせれば、生活やスポーツが楽にできるようになることもあります。ご自身の身体の使い方のクセや性質を知り、どういう身体の使い方をすれば痛みが出にくいのか、どんな運動習慣が必要なのかを知っていただきたいと思っています。」

また、総合病院で手術を受けられた後のリハビリにも対応しています。紹介元の医療機関と情報を共有しながら、外来通院での継続的なリハビリも行っています。

「地域の皆様が何でも気軽に相談できる身近な存在でありたいと思っています。どんな些細なことでもお気軽にご相談ください！」

## NEWS & REPORT!

### 現場を支え続けた功績に光

内田 正志 健康管理センター長が、「令和7年度 山口県救急医療功労者知事表彰」を受賞しました。長年にわたり小児救急医療に尽力し、地域医療の発展に大きく貢献してきた功績が高く評価されたものです。

また、田中 佳江 栄養管理室長が、「令和7年度 栄養指導業務功労者 厚生労働大臣表彰」を受賞しました。栄養改善および食生活改善事業の普及・向上に取り組み、地域の健康づくりに寄与してきた功労が讃えられました。



内田 正志 健康管理センター長



田中 佳江 栄養管理室長

### 周南市と連携するドクターカー

令和7年9月12日、当院は周南市と「救急車医師同乗システム（ドクターカー）」に関する協定を締結しました。医師・看護師・救急隊員が連携し、緊急度や重症度の高い現場へ迅速に出動することで、救命率の向上や後遺症の軽減を目指します。



市民の皆さまが安心して暮らせる地域づくりに貢献できるよう、今後も地域医療体制の充実に努めてまいります。なお、本事業は令和7年10月1日から試行運用を開始し、令和8年4月からの本格運用を予定しています。(記:救急科主任部長 清水 弘毅)

### アピアランスケアを周南地域で考える

令和7年12月1日、「令和7年度第1回 周南地域アピアランス支援研修会」が開催されました。当院は、厚生労働省の「令和7年度アピアランス支援」モデル事業に採択されており、本研修会はその取り組みの一環として実施されたものです。

アピアランスケアとは、治療に伴う外見の変化(脱毛や皮膚の変化など)に対して、患者さんの気持ちに寄り添いながら支援する取り組みです。当日は、国立がん研究センター中央病院 アピアランス支援センター長の藤岡 勝子先生による講演のほか、院長を含む職員との意見交換や現場視察が行われました。

当院および周南地域の医療機関から100名以上の職員が参加し、患者さんの生活や心に寄り添うケアへの理解を深める機会となりました。



## PICK UP!

医療に関する疑問にお答えします!

### “心理療法士”のお仕事

(左) 遠伝子診療科 心理療法士 宮越 彩矢香  
(右) 緩和ケアチーム 心理療法士 潮田 友美

#### ◎ 心と体のバランスを支える専門職です

からだところはつながっており、どちらかのバランスが崩れると生活に支障が出たり、回復が遅れたりすることがあります。当院には心の専門家2名(公認心理師、臨床心理士、がん・生殖医療専門心理士)が在籍し、不安や悩み、言葉にならない“モヤモヤ”に耳を傾けながら、患者さんが病気と向き合うお手伝いをしています。

#### ◎ どんなことをしているの?

必要に応じて心理療法や心理検査を実施したり、チー

ム医療に携わったりしています。院内スタッフとも情報を共有しながら、患者さんが自分らしく過ごせるよう活動しています。

#### ◎ 利用するには?

ご利用の際は主治医の許可が必要となりますので、医師または看護師にお気軽にお声がけください。当院に入院または通院されている方であれば、どなたでもご相談いただけます。



## ココにもスマイル

現在、5名の外来案内ボランティアの方に活動していただいています。外来受付や各検査室へのご案内、車いすをご利用の方の移動サポートなどを通して、来院される患者さんやご家族が安心して受診できるようお手伝いしています。ほかの案内係とも連携しながら、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな対応を心がけています。「助かりました」「ありがとう」といった言葉をいただくことが、私たちの大きな励みです。お困りの際は、どうぞお気軽にお声がけください。また、ボランティア活動に関心のある方も随時募集しています。私たちと一緒に活動してみませんか。



### CLOSE UP! 健診センター

#### ご高齢の方は、予防接種で病気を防ぎましょう

昨年4月から、65歳以上の方を対象に帯状疱疹ワクチンが定期接種となりました。今後5年間をかけて、65歳以上のすべての方に自治体から接種勧奨の案内(はがき)が届く予定です。

帯状疱疹は決して珍しい病気ではなく、50歳以上の方では3人に1人が発症するといわれています。また、発症した方の約5人に1人が、長く痛みが続く「帯状疱疹後神経痛」に悩まされることがあります。そのため、発症や重症化を防ぐ手段として、ワクチン接種が重要です。さらに、帯状疱疹に加え、肺炎球菌、RSウイルス、インフルエンザ、新型コロナウイルスなどの感染症も、高齢期には重症化しやすく注意が必要です。かかりつけ医と相談しながら、必要な予防接種を受け、安心して毎日を過ごしましょう。



健康管理センター長 内田 正志



### 医療のギモンにお答え!

第32回

### よろず相談室

#### 問 マイナンバーカードの健康保険証利用って?

答 これまでは、医療機関の窓口で高額な支払いがある場合、自己負担額を抑えるために「限度額適用認定証」を事前に申請し、持参する必要がありました。マイナンバーカードを健康保険証として使うと、この認定証がなくても、自己負担限度額を超える支払いが窓口で自動で免除されます。マイナンバーカードの保険証利用は、窓口(カードリーダー)で登録することができます。

### 地域のみなさまと病院をつなぐ地域医療連携の窓口です

#### 地域連携室・医療相談室

退院・転院支援や、活用できる社会制度の情報提供、患者さんやご家族のご心配事など、誰に相談していいかわからなくて困っていませんか? どんなことでもかまいません。まずはお気軽にご相談ください。

お電話でもOK! (0834) 28-4411

